

令和7(2025)年度 東京都立永山高等学校 学校経営報告

観点	今年度の教育活動の目標と方策	重点目標と方策	成果と課題・改善策
学習指導	<p>【目標】 カリキュラムマネジメントによる魅力化の創造</p> <p>【方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本校の教育課程と、生徒の進路希望別履修モデルを基に、学力の3要素に基づいた指導とルーブリック等の観点別評価、系統的な学習や教科横断的な学習、探究的な学び推進事業のもと、地域と協働した探究学習を研究・開発し、学習の手引き「学習のしかた」の充実化と、生徒、保護者への活用を図る。 ○同学年・同一科目の考査問題と教材の統一化により、IT化、AIやICTを活用しデータを可視化して定期考査や模試等による学力の定点観測や分析会等で指導の最適化を図る。 ○朝学習や反転学習を含めた予習・授業・復習の学習サイクルを定着させるとともに、学習環境整備、オンライン学習、eポートフォリオシステムなど、生徒の主体的な学習を支援し学び方と学習習慣を定着させる。 ○図書館機能の充実化と、生徒の図書委員会や、IT化、ICTを活用するなどして、情報教育やキャリア教育・進路学習を推進する。 ○校内及び小・中学校の授業参観、授業研究を全教員が行い、異校種相互の系統的な授業力の向上を図る。 ○国内外の高校・大学と学び合い相互交流を推進する。 	<p>【目標】 わかる授業から「自ら学びたい授業」へ</p> <p>【方策と数値目標】 授業満足度(肯定的評価)90%以上(前年度64%)、自己の授業を録画年2回以上実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育データ活用実証研究校として、教務部の進行管理のもと、教科主任会議で進路指導部や、拡大教務部会など学年と連携し、教育データを活用した学力分析による学力向上の取組とカリキュラムマネジメントを推進する。 ○デジタル技術を活用した意図的、計画的な教員研修、DSの支援を受け、年2回以上自己の授業を録画し、相互の授業研究を行って授業力の更なる向上を図る。 ○教務部と各教科会で定期考査、模試、生徒による授業評価結果等を分析し、教科主任会議で共有するなどして授業改善・充実化と統一的な評価基準を策定する。 ○進路希望や習熟の程度の違いに対応するため、各校務分掌と各教科の連携を密にして各生徒の学習状況と選択科目希望を共有し、模試や講習、学力向上研究校として学びの進んだ生徒を含む永高塾(校内寺子屋)でのAI教材の活用など生徒の確実な学力向上を図る。 ○地域の特色を生かした系統的な学習や、教科横断的な学習を行い、地域理解を深め、探究学習、進路学習、キャリア教育と関連させて推進する。 	<p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の肯定的評価 授業満足度67%(前年比3%増)・授業の目的意識60%(前年比1%増)・学力向上59%(前年比3%増) ○教育ダッシュボードを活用した生徒の学力分析により、学力向上が図られ保護者との共有もできた。また、模試による学力分析会を3回実施し、国語科、数学科及び英語科が主体的に分析を行い共有するとともに、授業改善につなげることができた。 ○授業録画については一部での実施となったが、デジタル技術を活用した授業実践は、拡大傾向にある。 ○昨年度の「指導と評価の一体化」の研修をふまえ、教務部と教科主任会議が中心となり統一的な評価基準の運用を実践した。今後は教材の統一化が課題となる。 ○1・2学年で地域協働と平和学習を中心に組織的な探究活動を実践した。来年度は組織的な取組として完成年度を迎える。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教務部を中心に、C4thなど、都のシステムの更なる活用、推進を図る。 ○教務部は、病気療養や自然災害等の影響によるオンライン学習について基準を示す。 ○学力向上と授業改善、同一学年、同一教科・同一科目の教材の共通化のため、教科主任会議を推進する。 ○授業等において、教員、生徒ともに、ICT教育機器の活用を推進する。1学年生徒に担当生徒の委員をつくり、生徒一人1台端末の活用を推進する。 ○各学年とも、授業のレベル目標の設定の歩留まりの工夫と外部人材の活用を行い、成績上位者(2割・60名から65名程度)の学力向上を図る。それにより、中間層(6割)の学力が向上する環境を作る。成績下位者(2割)は永高塾(従来の寺子屋)の充実により底上げを図る。 ○具現化実現化を目指した、地域と協働した探究活動の更なる推進を図る。
生活指導・健康づくり	<p>【目標】 生徒の健全育成と心身の健康・体力向上の推進</p> <p>【方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活の手引き「生徒手帳」を活用し健全育成と国際理解、心身の健康・体力向上や、保護者の理解を図る。 ○平和学習、人権尊重、自他の生命尊重など、講話や教職員全員による統一指導により更に育成する。 ○SNSなど情報モラルや規範意識の涵養と、主体性や自己肯定感など社会に必要な非認知能力を育成する。 ○生徒が主体的に取り組む体育祭、永高祭を推進する。 ○転退学者等ゼロになるよう家庭と緊密に連携を図る。 ○生徒による指揮・伴奏による校歌斉唱を充実化する。 	<p>【目標】 生徒の健全育成と心身の健康・体力向上の推進</p> <p>【方策と数値目標】 転退学者数ゼロ(前年度42名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒交流など、国際交流を推進する。 ○防災支援隊等、生徒が主体となって企画・実施等して市と連携した安全教育、防災教育を充実化する。 ○生活指導部主導で拡大生活指導部会など、学年や養護教諭、特別支援教育コーディネーター、不登校・中退対策の自立支援担当がSCやYSWと連携して特別支援教育・教育相談活動の充実化と、ケース会議などによる生徒のソーシャルスキルや非認知能力など自立に向けた教育を推進する。 	<p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○転退学者数38名(前年比4名減) ○生徒の肯定的評価「学校生活のきまり」を守る44%(前年比8%減)・生徒主体の学校行事71%(前年比3ポイント減) ○一部の科目で海外の高校と交流を試みたが、生徒交流と国際交流の推進は、次年度も課題となる。 ○防災支援隊の活動など生徒主体の活動が昨年より充実したが、防災教育では課題がある。 ○SNSなど情報モラルに関する規範意識の向上は、依然として課題である。 ○SCやYSWと連携することで教育相談の充実が図られ、継続した対応が生徒の生活改善につながった。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒会活動の年間計画の明確化 ○生徒によるSNSルールの作成など、生徒主体の生活改善 ○生活指導上の課題解決に向け、意図的・計画的な取組の実践による未然防止と再発防止 ○ヘルメット着用を含む自転車の安全指導の計画と生徒主体の実施 ○「健康教育」「情報モラル」「教育相談」を強化する。 ○国際交流・生徒交流の改善・充実化 ○夏季休業期間等に、消火栓、消火器、非常ベル、避難スロープなど、避難訓練や総合防災訓練に向けた防災の教員研修を実施する。 ○防災支援隊が中心となり、生徒が企画立案する避難訓練・防災訓練を推進する。
進路指導	<p>【目標】 進路実績の向上</p> <p>【方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○進路指導部主導で各学年と連携し組織的な進路指導体制のもと、生徒の進路希望を高いレベルで実現する。 ○進路の手引き「進路のしおり」を活用・推進し、進路選択に向けた面接指導や講演会、保護者会や保護者面談等を各学期に実施し、情報共有してともに育てる。 ○進路指導部が中心となり教務部や各教科と連携し講習や長期休業期間中の講習、自習体制を確立し組織的、計画的に生徒の学力向上と進路希望の実現を図る。 ○東京大学のオンライン講座や、オープンキャンパスなど、高大連携を推進し生徒の知的好奇心を育成する。 	<p>【目標】 進路実績の向上</p> <p>【方策と数値目標】 進路決定率100%(前年度94%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○進学指導研究校、総合型選抜対策に係る進学指導の業務支援のもと、進路指導部及び教務部主導により拡大進路指導部会など学年と連携してIT化、AIやeポートフォリオシステムを活用し外部模試の定点観測と分析を行い、長期休業期間中の組織的な講習等により学力向上を図り進路希望を実現させる。進路指導の自立支援担当とYSWとが協働し早い時期からの意図的、計画的な進路学習を推進し生徒の進路実現を図る。 ○永高塾の活用・充実化を推進する。 ○第一学年生徒全員インターンシップを実施する。 	<p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○進路決定率90%(前年比4%減) ○私立大学(大東亜帝国)合格者数40名(前年比3名増) ○就職希望者決定率100%(前年同様) ○駒沢大学に一般入試で1名合格 ○大学入学共通テストの科目平均点が、世界史、公共、生物において全国平均を上回る結果となった。 ○模試による学力分析会を3回実施し、国語科、数学科及び英語科が主体的に分析を行い共有するとともに、授業改善につなげることができた。 ○早期の進路目標設定と学力向上について、一定の成果がみられた。 ○講習の設定・参加や資格取得については課題が残る。 ○第一学年生徒全員インターンシップを実施し、一定の成果を収めることができた。成果発表会を実施し、協力企業等から高い評価を受けた。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○共通テストや一般入試を受験する生徒のために必要な夏期・冬期講習や、直前講習を外部人材を活用して設定する。 ○進路指導部が全生徒の進路希望と受験先一覧を作成し、組織的に進路指導にあたる。 ○就職希望者の校内選考会議を実施する。 ○2年生のキャンパス訪問を意図的・計画的・戦略的に実施する。 ○進学指導研究校として、入選や定期考査に基づく学力分析、模試分析など、授業改善と生徒の学力向上、大学進学希望をはじめ生徒の進路希望の高いレベルでの実現に向けた取組を推進する。

令和7(2025)年度 東京都立永山高等学校 学校経営報告

<p>特別活動等</p>	<p>【目標】 学校行事や生徒会活動によるリーダー養成 【方策】 ○地域の社会人や専門家、中学校と連携を図り、競技や発表の実践を通して知識・技能の伸長を図る。 ○学校行事や生徒会活動では、生徒が主役となり生徒自身が企画・運営して達成感と成就感等を経験させる。 ○生徒の図書委員会を中心に、図書館利用と読書活動を推進して国語力や表現力を養わせ読書意欲の向上と未読率の解消を図り、書評合戦等に積極的に参加する。 ○英検・漢検・上級救命士など、資格取得を推進する。</p>	<p>【目標】 リーダーの養成、部活動加入率の向上 【方策と数値目標】 遅刻数減(前年度7,813回)、部活動加入率85%(前年度56%) ○部活動改革パイロット校として、部活動の加入率を更に高めるとともに、地域連携・地域移行を推進する。 ○生徒会役員の先進校視察・リーダー研修による国内外の他校交流で、生徒の主体性やリーダー性を更に伸ばし、生徒や保護者へ報告するなどして還元する。 ○全国大会、世界大会レベルのコンテスト、コンクールへの応募を促進するなど生徒の顕彰機会を推進する。</p>	<p>【成果と課題】 ○遅刻数10,993回(前年比3,180回増) ○部活動加入率58%(前年比2%増) ○学校行事満足度肯定回答率67%(前年比7%減) ○学校行事や生徒会活動の中で、生徒会役員の活躍が顕著であった。委員会活動も活発化している。主体性やリーダー性の更なる伸長が課題である。 ○英検受験者の減少と漢字検定の合格率が低下し、資格取得に向け課題となる。 【改善策】 ○生徒会活動の推進 ○各種コンクールへの応募促進 ○外部人材も活用した資格取得の推進</p>
<p>家庭・地域との連携協力・交流活動、学校広報活動</p>	<p>【目標】 家庭、地域との密な連携と、戦略的な情報発信 【方策】 ○マスメディアに本校の魅力ある取組の情報を提供し、地域と連帯した広報活動を推進する。 ○4月から11月までを中心に、学校見学会、学校説明会、多摩市と連携した学校広報の機会や、生徒の母校訪問、学校運営連絡協議会等において、学校理解、学校評価をいただき本校の教育への支援を定着させる。</p>	<p>【目標】 IT等を活用した戦略的な情報発信 【方策と数値目標】 HP更新年130回以上、第一志望者増 ○ホームページや、学校案内等を積極的に活用したタイムリーな情報発信で、学校広報活動と中学生、保護者、地域等への特色ある取組の情報提供を推進する。 ○授業公開や保護者会、3者面談等の機会に参加者数増及び開催の周知方法や実施内容の改善を行い本校の魅力を伝える。中高連携3校を中心に緊密に連携する。</p>	<p>【成果と課題】 ○HP更新回数140回(前年比13回増) ○入選中進対倍率0.69倍(前年比0.17倍減) ○HPについて情報の更新を適時性をもって行うことが課題である。 ○3月に授業公開を実施し、成果発表会等の活動を発信した。 ○修学旅行をはじめとする平和学習を生かした多摩市平和展へ参加した。 【改善策】 ○HPによる情報発信を強化する。 ○各種コンクールへの応募促進 ○修学旅行や国際交流をとおして、引き続き、本校の平和学習を行うとともに、多摩市平和展への協力を推進する。</p>
<p>学校経営・組織体制</p>	<p>【目標】 学校経営参画の推進と組織の活性化 【方策】 ○企画調整会議や教科主任会議、校内研修を中心に学校経営を行い組織的な学校運営、学校経営を行う。 ○事前の校長レクや起案決裁を徹底するとともに、教員の職層に応じたOJTによる校務運営を行い育成する。 ○個人情報管理を含む校内の諸規定の再整備や、自律経営推進予算、私費会計等を適正執行し業務改善する。</p>	<p>【目標】 ライフ・ワーク・バランス推進による組織活性化 【方策と数値目標】 超勤時間月80時間以上ゼロ・45時間以上減少、いじめや生徒事故・体罰等の服務事故ゼロ ○教育データ利活用実証研究校として、都のシステムやAI教材の活用など、IT化・デジタル化を推進して生徒の学力と非認知能力の向上及び業務の効率化を図る。 ○働き方改革推進事業指定校として安全衛生委員会を中心にライフ・ワーク・バランスの勤務環境を構築する。</p>	<p>【成果と課題】 ○超勤時間月80時間以上ゼロ 未達成 ○超勤時間月45時間以上延べ人数 66名増 ○いじめの認知2件、2件とも解消 ○生徒事故ゼロ 未達成 ○体罰等の服務事故ゼロ 1件(答案紛失) ○分掌ごとの定時退勤日設定により、ライフ・ワーク・バランスの意識向上を図ることができた。 ○教育データ利活用実証研究校として一定の成果をあげた。 ○働き方改革推進事業指定校を活用したワークショップの実施により、会議室等使用予約簿のデジタル化を図った。 ○事前の校長レクが浸透しつつある。 ○学校運営連絡協議会が防災教育推進委員会を兼務することにより、幅の広い教育活動の視点に基づき運営することができた。 【改善策】 ○AI教材の活用など、IT化・デジタル化を推進して生徒の学力と非認知能力の向上及び業務の効率化を図る。 ○勤務時間を重視するとともに、定時退勤日を設定し、超過勤務解消につなげる。 ○校内研修の更なる推進を図る。</p>